

ここでは「座談会 学苑懷古」二、校舎を新仮名遣いで表記し、1. 広島県女が継承した広島県師範学校の学校施設、2. 広島県女の学校施設の整備と増改築、3. 学校の各施設、4. 学校施設の扁額、5. 明治38年(1905年)度広島県女教職員、6. まとめ、7. 参考・引用資料を掲載します。

二、校舎

筑瀬 「もとの校舎は県庁と同じ和洋折衷式で材木も一抱えもある樟など立派でしたね。」

久留島 「私はあの校舎で卒業しました。(大正3年)」

筑瀬 「あの改築は明治34年12月に認可になって大正11年に落成した。最初に40年に坐礼室が植物園に新築された。家事室は師範当時からあった。あの作法室は当時関西では最もよい設備でした。」

久留島 「私が入学した頃はあれが最新でした。」

木村 「これが焼けた分ですね。よく校長会をあの立礼室でやつた。」

記者 「一中でもあの英語学校を前身と言って居りました。」

筑瀬 「＜外語＞のあとが師範と一中となった。女学校となったのは明治34年12月20日です。35年1月に伊村視学官が校長事務取扱となり本校の設立認可となった日ですよ。2月4日に東京女高師教授廣瀬豊次郎が校長となり4月に開校した。二代の校長齋藤鹿三郎も女高師から来た。明治37年のころ32、3歳の若手東京高師出身で三土忠造氏が一番、齋藤校長が二番という秀才だったそうです。」【注1】

【注1】 広島外国語学校、広島県英語学校、広島県師範学校については「一、校地」に記載した。広島県女の初代校長は東京女高師助教授であった廣瀬豊十郎である。

1. 広島県女が継承した広島県師範学校の学校施設



写真1. 広島県女が増改築する前の旧広島県師範学校施設 出典：『六拾年回顧録 広島県師範学校附属小学校』昭和9年

前項の「一、校地」にある図3の広島中学校・師範学校施設図と照らし合わせると中央左の建物が本館、その右が体育館兼講堂、その右の2階建ての建物が広島県中学校寄宿舎、他は中教室と思われる。

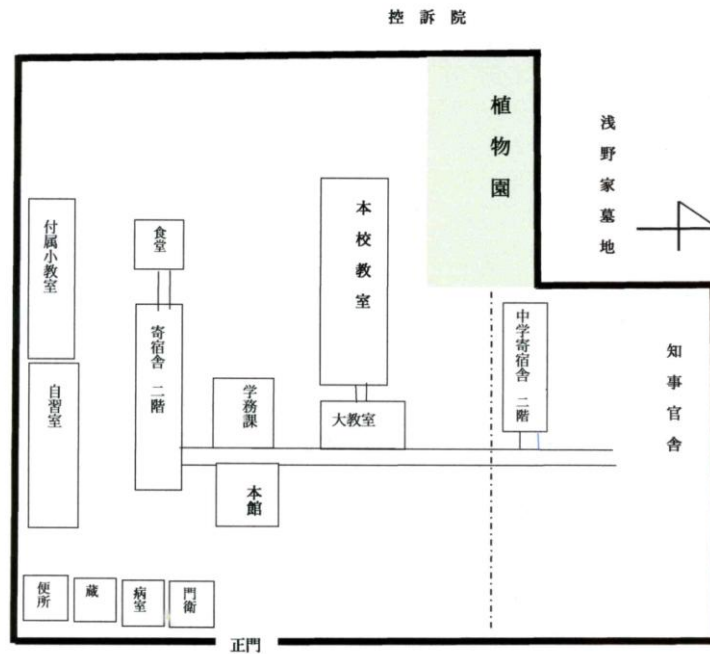


図 1．広島県女が引き継いだ広島県師範学校の校内略図（出典の校内図を参考に作成した略図）

出典：『明治大帝行幸五十周年 創立六十周年記念 六十年回顧録 広島県師範学校』昭和 10 年

本書には中学校の学校施設の多くは不記載、図 1 の植物園と中学寄宿舎との間の点線より左を主に広島県師範学校が使用とある。校内図にある知事官舎の文字は、広島市街新地図（資料番号 200407-828 明治 37 年 6 月 畠山陸太郎 広島県立文書館所蔵）には記載がなく、「一、校地」に記載しているごとく明治 34 年(1901 年)広島県女設立時には校地の一部を知事官舎用に分割していないので、校内図作成時に知事官舎の予定地として記入したかあるいは明治 37 年(1904 年)以後の状況を校内図に記載したものと推測される。

2．広島県女の学校施設の整備と増改築

広島県女が開校した当初、引き継いだ広島県師範学校の校舎と寄宿舎の施設や給排水などの設備は古く、当座しのぎの修理、補強がされた。

有朋 4 期生は当時の校舎の思い出を次のように記載している。

「校舎は古い古い旧式の建物、世間との境は黒板塀の見すばらしい学校で御座いました。しかし生徒それ自身は熾烈なプライドを有し、県下唯一の県立女学校、世の女学生の儀表とならねばとの意気を持ち、全校生徒の結束は実に鞏固なもので只菅に校風の確立、校名の宣揚に力めたものでございます。」（『皆実有朋七十周年記念誌』昭和 46 年）

校舎内の状態は有朋 15 期生が次のように回想している。

「1 年生の教室は南校舎で、その中廊下はとても暗かったことが今も印象に残っている。雨の日などは床の破れにあてられた板につまづくほどであったが、しかし大掃除のときは水を流して、すみずみまで拭きあげたものであった。旧きものへの誇り。そんなものを感じながら。」（『皆実有朋六十周年記念誌』）

校舎は古く傷みが激しかったが、生徒は広島県女生としての誇りをもち進取の精神に富んでいた。

明治 36 年(1903 年)教員、生徒数の増加に伴い校舎の改築が行われ、その後大正 11 年(1922 年)まで段階的に増改築がなされた。その内容は次の通りである。（『皆実有朋八十周年記念誌』昭和 57 年、『皆実有朋百周年記念誌』平成 13 年）

明治 36 年西側校舎(図 1 の本校教室と思われる)の大改築。校舎内を応接室、参観人控室、校長室、事務室、男教務室、女教務室などに区画。

明治 37 年(1904 年)齋藤鹿三郎校長の時代になると、次年度に 1 年生から 4 年生まで約 400 人がそろうのに備え、学校の整備が一段と進んだ。

明治 37 年夏休みに校舎の改築や寄宿舎倉庫の整備を促進。

明治 38 年(1905 年)応接室、事務室、教室（音楽室、理化教室階段式）などの改築。

明治 39 年(1906 年)図書室開設。

明治 41 年(1908 年)家事作法室竣工。

大正 2 年(1913 年)雨天体操場完成。

大正 9 年(1920 年)裁縫教室、家事实習室・ミシン室が完成。

大正 10 年(1921 年)普通教室 12 室、習画教室、博物教室および博物標本室、地歴標本室、実営部が完成。

大正 11 年本館および附属建物が落成。

大正 12 年(1923 年)寄宿舎が千田町に新築移転。

講堂と卒業生会館の竣工年は、調査した限りでは明かではないが、講堂は大正 2 年以降、卒業生会館は大正 15 年(1926 年)5 月の摂政宮殿下行啓を記念して建設決定（『皆実有朋百周年記念誌』）とあり、昭和初期と推定した。昭和 9 年(1934 年)の記念写真には会館の入り口正面に「有朋館 会館」と会館名があったので、下述する同会館を有朋館と記した。なお広島県女関係資料には「記念館」や「同窓会館」とした記載もある。

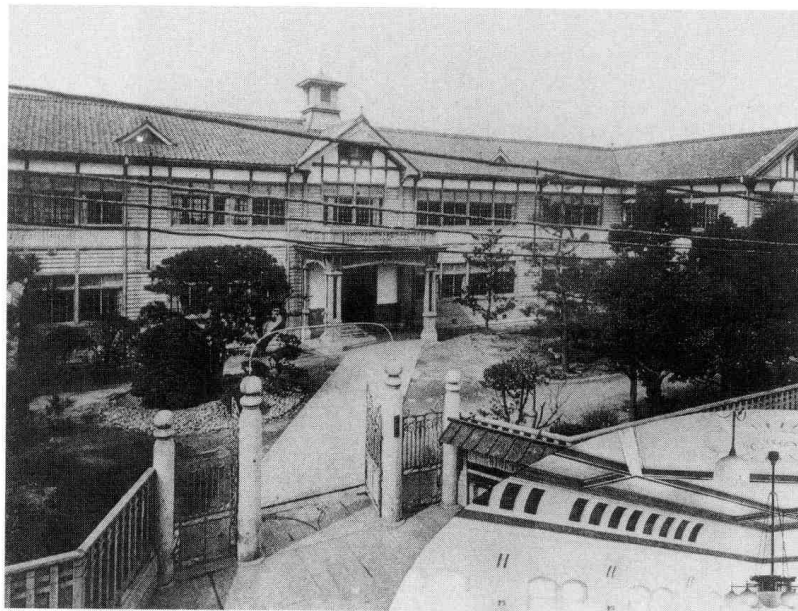
増改築された体操室（恐らく雨天体操場であろう）、新教室について大正 4 年当時 2 年の生徒は校友会雑誌に次のように述べている。

「立ち並びたる校舎は、概ね古式の建物なれば人目を引くには足らねども体操室及び新教室のみは見る人賞賛せざるはなし、殊に体操室の如きは其の床清く、みがき立て

られて我が影もうつらんばかりに、艶々しく光を放てる程なり。我等は常にここにて身体を鍛ふなり。新教室は作法家事割烹等を学ぶ室にて…略…」(『皆実有朋七十年記念誌』)

本館が竣工し各教室が増改築された当時を有朋 15 期生は次のように回想している。

「…略…その後本館も教室も改築され、寄宿舍も校外に移り、昔に一変した明るい姿となったけれど、木々に包まれた白壁の平屋建ての校舎はなんといっても懐かしい限りである。」(『皆実有朋六十周年記念誌』)



正面 2 階に「白塔」のある本館

写真 2. 大正 11 年に落成した本館 出典：『皆実有朋九十年史』1991 年



写真 3. 昭和初期の校舎を校庭の西側から東側に向けて撮影。写真にある建物は左端が各教室、中央が本館、続いて教室、右端の奥が講堂手前が雨天体操場と思われる。

出典：『第二十七回卒業写真帳 昭和八年三月 広島県立広島高等女学校』

(2014-010-有朋 27 期)



校舎全景（昭和初期）

図2. 昭和初期の広島県女の校地校舎の全景 出典：『皆実有朋九十年史』

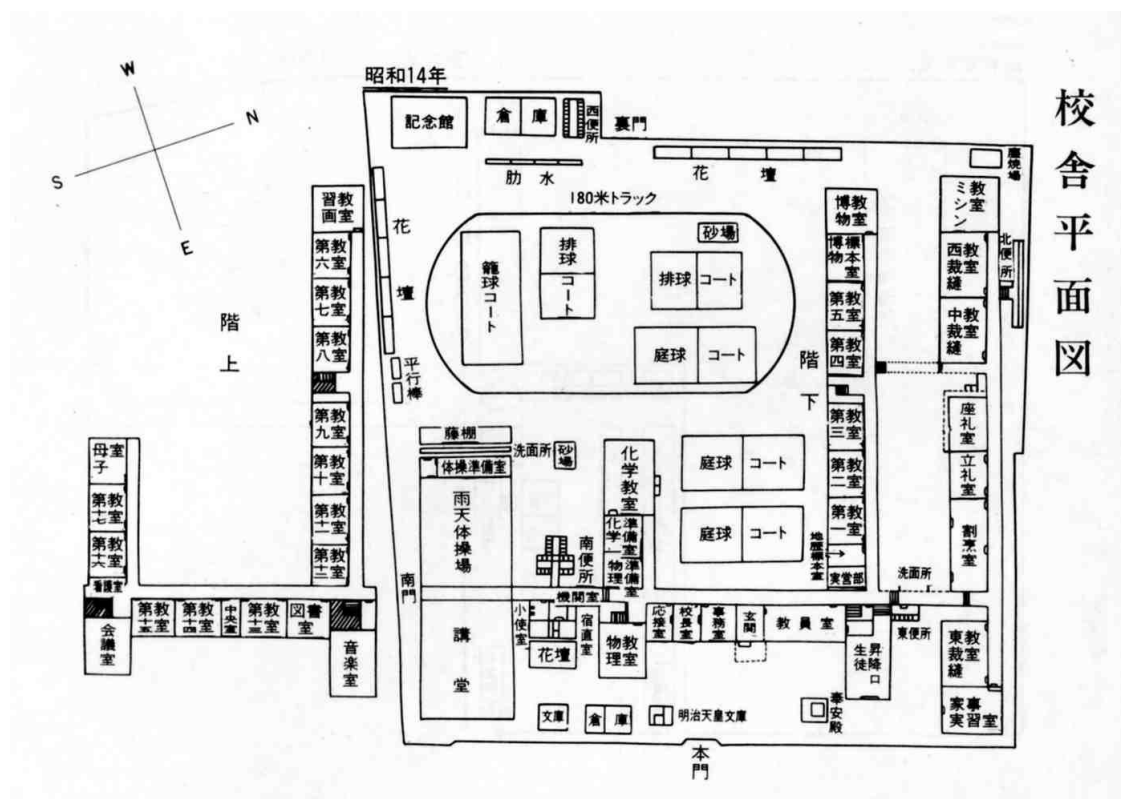


図3. 昭和14年(1939年)広島県女の校舎平面図 出典：『皆実有朋八十周年記念誌』
明治・大正期に増改築された学校施設 本門右に奉安殿がある。

3. 学校の各施設



写真 4. 明治末頃の校長室 出典：「広島県女ポストカード」（2013-010-有朋 4 期）



写真 5. 整備された寄宿舍 出典：『皆実有朋九十年史』

広島県女の寄宿舍は開校当時から正門を入って左側にあり、広島県師範学校の寄宿舍（図 1）を継続して利用していたと思われる。明治 37 年（1904 年）に整備された。広島市周辺の郡部、他府県の生徒が寄宿していた。寄宿舍の生活においても、「淑徳ある良妻賢母を養成する」ことが求められていた。大正 12 年（1923 年）寄宿舍は千田町に移転した。



写真 6．家事理化教室 明治末頃 出典：「広島県女ポストカード」（2013-010・有朋 4 期）

理化教室は階段式で暗室にもなった。理化実験室は 50 人の生徒が同時に実験でき、一机ごとに水道管、ガス管、電気が通じてあらゆる実験ができた。（『皆実有朋百周年記念誌』）

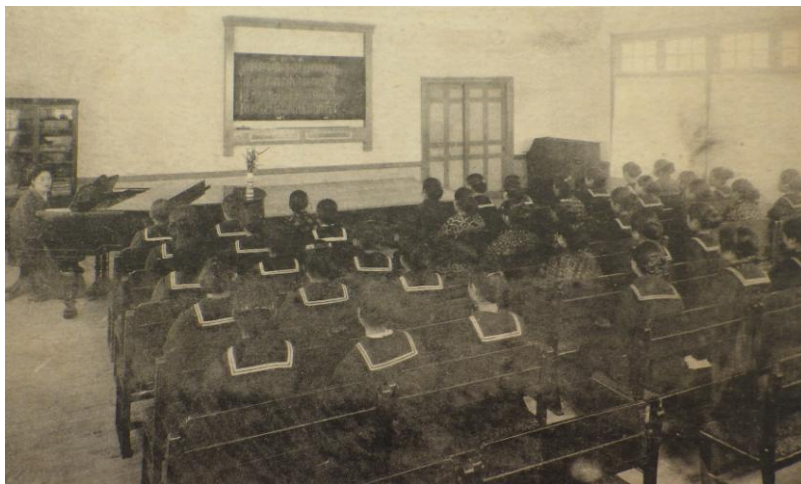


写真 7．音楽室 大正中頃 出典：「広島県女ポストカード」（2013-016・有朋 17 期・有朋 39 期）

音楽室は関西一であろうとの世評があった。（『皆実有朋百周年記念誌』）



写真 8．家事作法室 出典：『皆実有朋九十年史』

平屋の和風建築で、全国の各高等女学校中最も整備された建物として自慢できるものであった。（『皆実有朋百周年記念誌』）

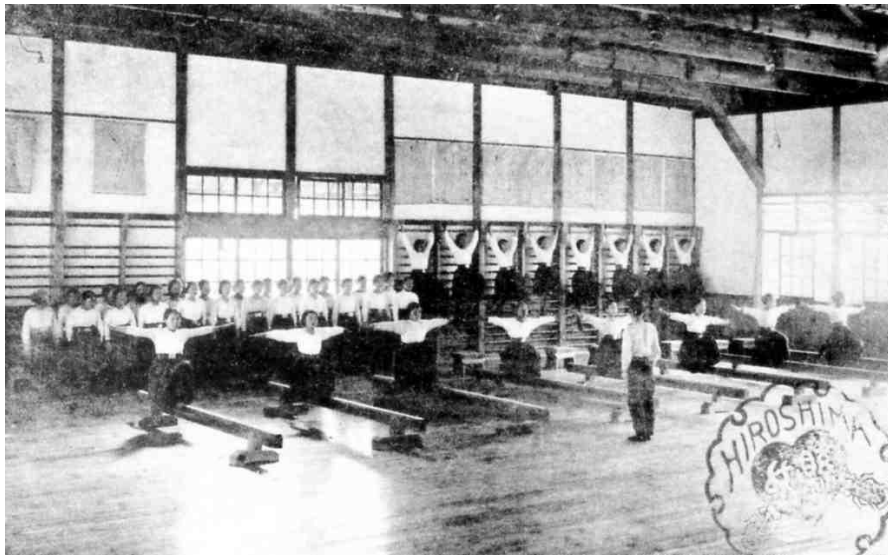


写真 9．雨天体操場 出典：『皆実有朋九十年史』

体操強化のため雨天体操場が設置された。そこでは、薙刀試合など様々な競技や運動が行われていた

大正 9 年(1920 年)の入学式は講堂がなかったため雨天体操場で催された。（『皆実有朋六十周年記念』）



写真 10. 割烹教室 大正中頃 出典：「広島県女ポストカード」（2013-016-有朋 17 期・有朋 39 期）

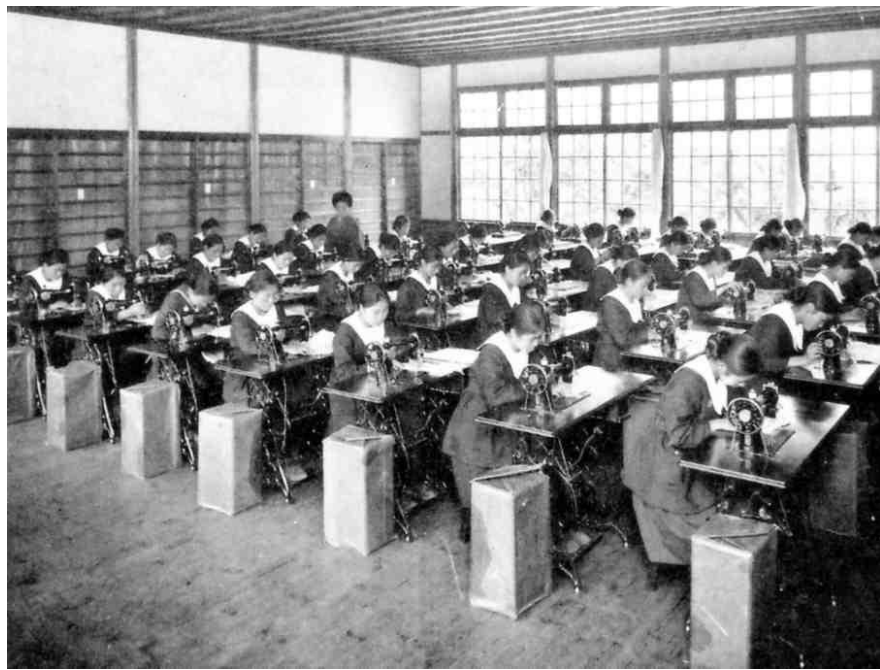


写真 11. ミシン教室 出典：『皆実有朋九十年史』
大正末期から昭和初期のミシンの授業風景



写真 12. 裁縫教室 出典 『広島県立広島高等女学校第二十四回卒業記念 昭和五年三月』（皆実有朋会資料）
裁縫の授業風景



写真 13. 講堂 出典；出典：『皆実有朋九十年史』
様々な学校行事が開催。齋藤鹿三郎校長時代「講堂修身」が毎月 1 回行われ吉田松陰の母の話など女性の生き方に関するものが多く、卒業生の多くは生涯の亀鑑とした。



写真 14. 有朋館

出典：『皆実有朋九十年史』

写真は昭和初期、運動会（縄跳び競技）が行われている校庭。その右奥（校庭の南西の角）の建物が有朋館。大正 15 年（1926 年）摂政宮殿下（後の昭和天皇）行啓を記念して建設。（『皆実有朋八十周年記念誌』）。

4. 学校施設の扁額

委員会にご提供いただいた広島県女卒業アルバムにある講堂、教室などに扁額が掲げられており、そこに揮毫されている文字は次に写真で示す「克忠克孝」「欲心健則要骸健」「就実」「達観」「自彊」「気節」であった。これらの教室にある扁額が明治、大正、昭和初期からあったものかどうかは皆実有朋アーカイブズ委員会の資料からは明らかにできなかった。さらに講堂に「親切辛抱」の大額があったとの記載がある（『皆実有朋 90 年史』）。

いずれの扁額にある文字も自己啓発を促すものであった。



写真 15. 昭和 16 年(1941 年)頃、奉祝会式典が開催されている講堂（写真上）、雨天体操場と思われる施設（写真下）

出典：『皇紀二千六百年三月 第三十四回卒業記念 広島県立広島高等女学校』
（皆実有朋会資料）

写真上 扁額に「克忠克孝」とある。

写真下 扁額に「欲心健則要體健」とある。

「欲心健則要體健」は齋藤鹿三郎氏著書『女子補修子女教育法』の「健康なる身体には健全なる精神が宿るものである」を表している。嘉納治五郎（雅号 進乎齋）の揮毫（『皆実有朋六十周年記念誌』）。



写真 16. 教室での授業。出典：『第二十七回卒業写真帳 昭和八年三月 広島県立広島高等女学校』（2014-010-有朋 27 期）
黒板の上方の扁額に「就実」とある。



写真 17. 教室での英語の授業風景。出典：『第二十七回卒業写真帳 昭和八年三月 広島県立広島高等女学校』（2014-010-有朋 27 期）
扁額に「達観」とある。



写真 18. 理化教室での授業風景。出典：『第三十五回卒業記念広島県立広島高等女学校』（2011-015-有朋 35 期、2013-023-有朋 35 期）
扁額に「自彊」とある。



写真 19. 国語教室の授業風景。出典：『第三十五回卒業記念広島県立広島高等女学校』（2011-015-有朋 35 期、2013-023-有朋 35 期）
扁額に「気節」とある。

5. 明治 38 年(1905 年)度広島県女教職員

教職員一覧表 明治 38 年(1905 年)

職名	名前	受持科目	学歴	出身
校長	斎藤 鹿三郎	修身・教育	東京高師文科卒	福島
教諭	中山 正心	修身・国語	東京高師文科卒	山梨
教諭	泉本 覚一郎	英語	外国語学校教育養成所卒	奈良
教諭	政池 新作	数学	文部省実指	愛知
教諭	下瀬 龍乃	理科	女子高師校理科卒	山梨
教諭	山崎 那美	図画・習字	女子高師校文科卒	鳥取
教諭	岡 みやこ	国語・作法	女子高師校文科卒	宮城
教諭	大西 タツ	家事・裁縫 図画・刺繍	女子高師校技芸科卒	香川
教諭	大熊 信	音楽	音楽学校卒	山形
教諭	杉山 よしの	家事・裁縫 国語・習字	女子高師校家事専修科卒	福岡
教諭	藤井 トヨ	歴史・体操	女子高師校文科卒	山口
助教諭	内海 さだ	地理・歴史	女子高師校地理歴史専修卒	兵庫
助教諭	関 ヨシ	体操	女子高師校国語体操専修卒	広島
教師	佐藤 寅	裁縫・刺繍	仙台台松操卒	岡山
教師	日比野 勇次郎	図画		愛知
教師	石井 將之	薙刀		熊本
教師	佐竹 義治	插花		広島

表 1. 明治 38 年度広島県女教職員一覧 出典：『皆実有朋百周年記念誌』

広島県女の初代校長に明治 35 年(1902 年)東京女子高等師範学校助教授の広瀬豊十郎が任命されたが、明治 37 年(1904 年)2 月退職。同年 3 月 7 日第 2 代校長に東京女子高等師範学校教授の齋藤鹿三郎 34 歳が就任した。齋藤鹿三郎校長の出自は『日本名家肖像事典第十二巻』平成 2 年（『明治聖代教育家銘鑑 3』明治 45 年刊の影印復刻）によると福島県士族、明治 3 年(1870 年)2 月生まれ、温厚の裡剛健の意気自ら蔵すとある。広島県女校長就任後 8 年間の教育が高く評価され正七位を授与され『明治聖代教育家銘鑑 3』に名前が掲載されており、著名な教育家であった。免許科目は『広島県立広島高等女学校一覧従明治三十九年四月至明治四十年三月』には修身、教育、国語、漢文、地理、歴史とある。齋藤鹿三郎校長は吉田松陰を私淑し、明治 26 年(1893 年)より吉田松陰を研究、後に昭和 18 年(1943 年)『吉田松陰正史』を上梓していた。この研究は齋藤鹿三郎校長による広島県女の教育に多大なる影響を齎したであろうと推察する。広島県女における教育方針は「四、校風」に於いて記述する。

教職員は本州、四国、九州から選ばれており、学歴からしていずれの科目の教諭もその道の権威者と思える。教師たちは毎月 1 回教授訓練法研究会を開催し各教科の教授訓練の方法や生徒の個性や態度・風紀などを熱心に研究していた（『皆実有朋八十周年記念誌』）。

6. まとめ

広島県女が広島県師範学校から受け継いだ学校施設は古く、傷みがひどく、開校当初から補修がなされたが、生徒数の増加もあり、明治 36 年(1903 年)から大正 11 年(1922 年)にかけて大幅な増改築が本格的に行われた。増改築された施設は、音楽室、理化室、雨天体操場など当時としては立派な設備だった。

昭和 10 年(1935 年)代の生徒アルバムには講堂、体育館、教室内に扁額が掲げられ、そこには「就実」「達観」「気節」などの文字が揮毫されていた、生徒に自己啓発を促していたと思われる。アーカイブズ委員会が所蔵する明治、大正時代の教室内の写真が極めて少ないため、これらの扁額がいつ頃に備え付けられたかは明らかではない。

齋藤鹿三郎校長は『明治聖代教育家銘鑑』に掲載された著名な教育家であり、教職員は精鋭ぞろいで熱血教師が多くいた。

7. 参考・引用資料

『六拾年回顧録 広島県師範学校附属小学校』昭和 9 年、『明治大帝行幸五十周年 創立六十周年記念 六十年回顧録 広島県師範学校』昭和 10 年、「広島市街新地図」（資料番号 200407-828 明治 37 年 6 月 畠山陸太郎 広島県立文書館所蔵）、『皆実有朋七十周年記念誌』昭和 46 年、『皆実有朋六十周年記念誌』昭和 36 年、『皆実有朋八十周年記念誌』昭和 57 年、『皆実有朋百周年記念誌』平成 13 年、『皆実有朋九十年史』1991 年、『第二十七回卒業写真帳 昭和八年三月 広島県立広島高等女学校』（2014-010-有朋 27 期）、「広島県女ポストカード」（明治末頃）（2013-010-有朋 4 期）、「広島県女ポストカード」（大正中頃）（2013-016-有朋 17 期・有朋 39 期）、『広島県立広島高等女学校 第二十四回卒業記念 昭和五年三月』、『皇紀二千六百年三月 第三十四回卒業記念 広島県立広島高等女学校』昭和 15 年、『第三十五回卒業記念広島県立広島高等女学校』昭和 16 年(2011-015-有朋 35 期、2013-023-有朋 35 期)、『日本名家肖像事典第十二巻』平成 2 年（『明治聖代教育家銘鑑 3』明治 45 年刊の影印復刻）、『広島県立広島高等女学校一覽從明治三十九年四月至明治四十年三月』明治 39 年（資料番号 8814-393 佐々木家文書 広島県立文書館所蔵）、『吉田松陰正史』昭和 18 年

、

三、生徒数に続く

.